調査の概要

1　調査の目的

看護職員確保のために，職場環境づくり等に取り組んでいる施設の実態を調査し，看護職員の離職防止・定着促進のための対策の基礎資料とする。

2　調査主体

広島県　【調査実施：公益社団法人広島県看護協会(委託)】

3　調査の時期

令和 5 年 12 月 13 日～令和 6 年 1 月 19 日

4　調査対象及び調査方法

県内の全病院である 232 病院（令和 5 年 10 月 31 日現在）を母集団として，病院の看護管理者（看護部長等）を対象に自記式調査票（Ⅲ参考資料　資料 1，資料 2）を郵送し，返信用封筒により回収した。

5　回収数及び有効回答

回収数及び有効回答

調査客体 （a）	回収数 （b）	回収率 （b）／（a）	有効回答数 （c）	有効回答率 （c）／（b）
232	185	80%	185	100%

6　本文の表し方

1)　看護職員は，保健師，助産師，看護師及び准看護師をいう。

2)　正規職員とは，原則としてフルタイム勤務であり，雇用の形態が無期雇用かつ直接雇用の職員をいう。なお，常勤，非常勤は勤務時間により区分するもので，常勤職員はフルタイムで働く職員のことをいう。

3)　新卒とは，看護師等免許取得後 1 年以内をいう。

4)　回答率（項目の回答の百分比）は，小数点第 2 位を四捨五入した。

5)　本文，統計表等で用いた記号等の意味は，主に以下のとおりである。

(1)　「n」はその質問に対する回答数であり比率算出の基数である。

(2)　統計図表の「-」は計数がないことを示す。「0」は，計数はあるが四捨五入をして 0 であることを示す。

6)　離職率の算出は次の計算による。

○　正規看護職員離職率＝当該年度正規離職者数／当該年度平均正規職員数×100

▶　平均正規職員数＝（年度当初の在籍職員数＋年度末の在籍職員数）／2

○　正規以外看護職員離職率＝当該年度正規以外離職者数／当該年度平均正規以外職員数×100

▶　平均正規以外職員数＝（年度当初の在籍職員数＋年度末の在籍職員数）／2

○　新卒離職率＝当該年度の新卒離職者数／当該年度の新卒採用者数×100

Ⅱ　調査結果

1　病院の概要

令和５年４月１日現在の病院の概要は次のとおりであった。

1)　設置主体別病院数

設置主体別で最も多いのは，「医療法人」120 病院(64.9%)，次いで「県市町」16 病院(8.6%)であった。(表 1)

表１　　設置主体別病院数

（単位：病院（%））

設置主体	病院数		備考
計	185	(100.0)	
国公立大学法人	1	(0.5)	
独立行政法人	12	(6.5)	
県市町	16	(8.6)	都道府県=5, 市町村=11,
その他公的医療機関	8	(4.3)	日赤=3, 厚生連=3, 済生会=2
医療法人	120	(64.9)	
個人	6	(3.2)	
会社	3	(1.6)	
その他の法人	9	(4.9)	社会福祉法人=4, 医師会=2, 医療センター=1, 一般財団法人=1
その他	10	(5.4)	共済組合及びその連合会=5, 医療生協=3, 健康保険組合及びその連合会=1, 防衛省=1

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

2)　保健医療圏域別病院数

保健医療圏域別で最も多いのは，「広島」77 病院(41.6%)，次いで「福山・府中」36 病院(19.5%)であった。(表 2)

表２　　保健医療圏域別病院数

（単位：病院（%））

保健医療圏域	病院数	
計	185	(100.0)
広島	77	(41.6)
広島西	10	(5.4)
呉	23	(12.4)
広島中央	17	(9.2)
尾三	15	(8.1)
福山・府中	36	(19.5)
備北	7	(3.8)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

3) 稼働病床規模別病院数

稼働病床（以下「病床」という。）規模別で最も多いのは，「100 床～199 床」が 71 病院(38.4%)，次いで「99 床以下」が 64 病院（34.6%）で，200 床未満が全体の 73%であった。（表 3）

表 3　　病床規模別病院数

（単位：病院（%））

病床規模	病院数	
計	185	(100.0)
99 床以下	**64**	**(34.6)**
100～199 床	**71**	**(38.4)**
200～299 床	25	(13.5)
300～399 床	13	(7.0)
400～499 床	5	(2.7)
500 床以上	7	(3.8)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

2　看護職員の状況

令和 5 年 4 月 1 日現在の看護職員の状況は次のとおりであった。

1)　正規・正規以外別・職種別看護職員数（実人員・換算数）

正規・正規以外別・職種別看護職員数の実人員は 23,496 人で，「正規」21,185 人(90.2%)，「正規以外」2,311 人(9.8%)であった。（表 4-①）

換算数は 21,796.6 人で，「正規」20,149.3 人(92.4%)，「正規以外」1,647.3 人(7.6%)であった。（表 4-②）

表 4-①　　正規・正規以外別・職種別 看護職員数（実人員）

（単位：人（%））

区分	計		保健師		助産師		看護師		准看護師	
計	**23,496**	(100.0)	94	(0.4)	498	(2.1)	20,934	(89.1)	1,970	(8.4)
正規	**21,185**	**(90.2)**	78	(0.3)	460	(2.0)	19,117	(81.4)	1,530	(6.5)
（男性）	2,494	(10.6)	8	(0.0)			2,324	(9.9)	162	(0.7)
正規以外	**2,311**	**(9.8)**	16	(0.1)	38	(0.2)	1,817	(7.7)	440	(1.9)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

表 4-②　　正規・正規以外別・職種別 看護職員数（換算数）

（単位：人（%））

区分	計		保健師		助産師		看護師		准看護師	
計	**21,796.6**	(100.0)	86.7	(0.4)	463.3	(2.1)	19,455.0	(89.3)	1,791.6	(8.2)
正規	**20,149.3**	**(92.4)**	75.0	(0.3)	434.0	(2.0)	18,156.8	(83.3)	1,483.5	(6.8)
正規以外	**1,647.3**	**(7.6)**	11.7	(0.1)	29.3	(0.1)	1,298.2	(6.0)	308.1	(1.4)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

2) 保健医療圏域別・職種別看護職員数（実人員・換算数）

保健医療圏域別・職種別看護職員の実人員で最も多いのは「広島」10,886 人(46.3%)，職種別では「看護師」9,903 人(42.1%)，次いで「福山・府中」3,966 人(16.9%)，職種別では「看護師」3,385 人(14.4%)であった。(表 5-①)

換算数でみると，最も多いのは「広島」10,095.1 人(46.3%)，職種別では「看護師」9,194.0 人(42.2%)，次いで「福山・府中」3,533.4 人(16.2%)，職種別では「看護師」3,004.8 人(13.8%)であった。(表 5-②) また，看護職員の正規の実人員・換算数でも同様の傾向であった。(表 5-③) (表 5-④)

表 5-①　保健医療圏域別・職種別 看護職員数（実人員）

（単位：人（%））

区分	計		保健師		助産師		看護師		准看護師	
計	23,496	(100.0)	94	(0.4)	498	(2.1)	20,934	(89.1)	1,970	(8.4)
広島	10,886	(46.3)	40	(0.2)	242	(1.0)	9,903	(42.1)	701	(3.0)
広島西	1,442	(6.1)	6	(0.0)	26	(0.1)	1,333	(5.7)	77	(0.3)
呉	2,538	(10.8)	25	(0.1)	48	(0.2)	2,187	(9.3)	278	(1.2)
広島中央	1,777	(7.6)	5	(0.0)	27	(0.1)	1,590	(6.8)	155	(0.7)
尾三	2,131	(9.1)	6	(0.0)	38	(0.2)	1,890	(8.0)	197	(0.8)
福山・府中	3,966	(16.9)	6	(0.0)	88	(0.4)	3,385	(14.4)	487	(2.1)
備北	756	(3.2)	6	(0.0)	29	(0.1)	646	(2.7)	75	(0.3)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

表 5-②　保健医療圏域別・職種別 看護職員数（換算数）

（単位：人（%））

区分	計		保健師		助産師		看護師		准看護師	
計	21,796.6	(100.0)	86.7	(0.4)	463.3	(2.1)	19,455.0	(89.3)	1,791.6	(8.2)
広島	10,095.1	(46.3)	36.3	(0.2)	224.4	(1.0)	9,194.0	(42.2)	640.4	(2.9)
広島西	1,396.5	(6.4)	5.8	(0.0)	25.8	(0.1)	1,290.5	(5.9)	74.4	(0.3)
呉	2,406.7	(11.0)	22.2	(0.1)	47.7	(0.2)	2,084.7	(9.6)	252.1	(1.2)
広島中央	1,640.8	(7.5)	4.6	(0.0)	23.0	(0.1)	1,473.0	(6.8)	140.2	(0.6)
尾三	2,009.7	(9.2)	5.8	(0.0)	33.5	(0.2)	1,794.7	(8.2)	175.7	(0.8)
福山・府中	3,533.4	(16.2)	6.0	(0.0)	82.4	(0.4)	3,004.8	(13.8)	440.2	(2.0)
備北	714.5	(3.3)	6.0	(0.0)	26.5	(0.1)	613.3	(2.8)	68.7	(0.3)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

表 5-③　　保健医療圏域別・職種別 看護職員数（正規の実人員）

（単位：人（%））

区分	計		保健師		助産師		**看護師**		准看護師	
計	21,185	(100.0)	78	(0.4)	460	(2.2)	19,117	(90.2)	1,530	(7.2)
広島	**9,878**	**(46.6)**	30	(0.1)	226	(1.1)	**9,065**	**(42.8)**	557	(2.6)
広島西	1,335	(6.3)	5	(0.0)	24	(0.1)	1,246	(5.9)	60	(0.3)
呉	2,247	(10.6)	22	(0.1)	46	(0.2)	1,958	(9.2)	221	(1.0)
広島中央	1,589	(7.5)	4	(0.0)	27	(0.1)	1,440	(6.8)	118	(0.6)
尾三	1,891	(8.9)	6	(0.0)	35	(0.2)	1,716	(8.1)	134	(0.6)
福山・府中	**3,596**	**(17.0)**	6	(0.0)	83	(0.4)	**3,121**	**(14.7)**	386	(1.8)
備北	649	(3.1)	5	(0.0)	19	(0.1)	571	(2.7)	54	(0.3)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

表 5-④　　保健医療圏域別・職種別 看護職員数（正規の換算数）

（単位：人（%））

区分	計		保健師		助産師		**看護師**		准看護師	
計	20,149.3	(100.0)	75.0	(0.4)	434.0	(2.2)	18,156.8	(90.1)	1,483.5	(7.4)
広島	**9,364.4**	**(46.5)**	28.8	(0.1)	210.7	(1.0)	**8,584.8**	**(42.6)**	540.1	(2.7)
広島西	1,309.7	(6.5)	5.0	(0.0)	23.8	(0.1)	1,221.2	(6.1)	59.7	(0.3)
呉	2,204.1	(10.9)	20.6	(0.1)	46.0	(0.2)	1,923.7	(9.5)	213.8	(1.1)
広島中央	1,509.3	(7.5)	3.8	(0.0)	23.0	(0.1)	1,371.6	(6.8)	110.9	(0.6)
尾三	1,841.7	(9.1)	5.8	(0.0)	33.0	(0.2)	1,670.0	(8.3)	132.9	(0.7)
福山・府中	**3,286.2**	**(16.3)**	6.0	(0.0)	78.5	(0.4)	**2,828.6**	**(14.0)**	373.1	(1.9)
備北	633.9	(3.1)	5.0	(0.0)	19.0	(0.1)	556.9	(2.8)	53.0	(0.3)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

3) 病床規模別・職種別看護職員数（実人員・換算数）

病床規模別に看護職員数の「実人員」をみると，最も多いのは「100～199 床」6,226 人(26.5%)，次いで「500 床以上」5,406 人(23.0%)であった。また職種別にみると，最も多いのは「100～199 床」の「看護師」で 5,369 人(22.9%)であった。(表 6-①)

「換算数」でみると，最も多いのは「100～199 床」5,818.4 人(26.7%)，次いで「500 床以上」5,020.4 人(23.0%)であった。また職種別にみると，最も多いのは「100～199 床」の「看護師」で 5,027.1 人(23.1%)であった。(表 6-②) 病床規模別に「正規の実人員」をみると，最も多いのは「100～199 床」5,363 人（25.3%），次いで「500 床以上」の 5,132 人（24.2%）であった。また，職種別にみると最も多いのは「500 床以上」の「看護師」で 4,909 人（23.2%）であった。(表 6-③)

「正規の換算数」をみると，最も多いのは「100～199 床」5,253.4 人（26.1%），次いで「500 床以上」4,787.8 人（23.8%）であった。また，職種別にみると最も多いのは「100～199 床」の「看護師」で 4,596.1 人（22.8%）であった。(表 6-④)

表 6-①　　病床規模別・職種別 看護職員数（実人員）

（単位：人（%））

区分	計		保健師		助産師		**看護師**		准看護師	
計	**23,496**	(100.0)	94	(0.4)	498	(2.1)	20,934	(89.1)	1,970	(8.4)
99 床以下	2,455	(10.4)	6	(0.0)	37	(0.2)	1,919	(8.2)	493	(2.1)
100～199 床	**6,226**	**(26.5)**	21	(0.1)	－	－	**5,369**	**(22.9)**	836	(3.6)
200～299 床	3,872	(16.5)	22	(0.1)	29	(0.1)	3,437	(14.6)	384	(1.6)
300～399 床	3,397	(14.5)	36	(0.2)	128	(0.5)	3,005	(12.8)	228	(1.0)
400～499 床	2,140	(9.1)	1	(0.0)	82	(0.3)	2,034	(8.7)	23	(0.1)
500 床以上	**5,406**	**(23.0)**	8	(0.0)	222	(0.9)	5,170	(22.0)	6	(0.0)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

表 6-②　　病床規模別・職種別 看護職員数（換算数）

（単位：人（%））

区分	計		保健師		助産師		**看護師**		准看護師	
計	**21,796.6**	(100.0)	86.7	(0.4)	463.3	(2.1)	19,455.0	(89.3)	1,791.6	(8.2)
99 床以下	2,180.9	(10.0)	5.8	(0.0)	32.8	(0.2)	1,720.6	(7.9)	421.7	(1.9)
100～199 床	**5,818.4**	**(26.7)**	17.5	(0.1)	－	－	**5,027.1**	**(23.1)**	773.9	(3.6)
200～299 床	3,529.8	(16.2)	21.8	(0.1)	28.5	(0.1)	3,116.4	(14.3)	363.1	(1.7)
300～399 床	3,192.2	(14.6)	33.0	(0.2)	118.7	(0.5)	2,830.6	(13.0)	209.9	(1.0)
400～499 床	2,055.0	(9.4)	0.8	(0.0)	75.0	(0.3)	1,961.1	(9.0)	18.1	(0.1)
500 床以上	**5,020.4**	**(23.0)**	7.8	(0.0)	208.3	(1.0)	4,799.3	(22.0)	5.0	(0.0)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

表 6-③　　病床規模別・職種別 看護職員数（正規の実人員）

（単位：人（%））

区分	計		保健師		助産師		**看護師**		准看護師	
計	**21,185**	(100.0)	78	(0.4)	460	(2.2)	19,117	(90.2)	1,530	(7.2)
99 床以下	2,099	(9.9)	5	(0.0)	27	(0.1)	1,695	(8.0)	372	(1.8)
100～199 床	**5,363**	**(25.3)**	14	(0.1)	－	－	4,696	(22.2)	653	(3.1)
200～299 床	3,459	(16.3)	19	(0.1)	26	(0.1)	3,100	(14.6)	314	(1.5)
300～399 床	3,144	(14.8)	33	(0.2)	113	(0.5)	2,819	(13.3)	179	(0.8)
400～499 床	1,988	(9.4)	－	－	79	(0.4)	1,898	(9.0)	11	(0.1)
500 床以上	**5,132**	**(24.2)**	7	(0.0)	215	(1.0)	**4,909**	**(23.2)**	1	(0.0)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

表 6-④　　病床規模別・職種別 看護職員数（正規の換算数）

（単位：人（%））

区分	計		保健師		助産師		**看護師**		准看護師	
計	**20,149.3**	(100.0)	75.0	(0.4)	434.0	(2.2)	18,156.8	(90.1)	1,483.5	(7.4)
99 床以下	1,954.0	(9.7)	4.8	(0.0)	25.0	(0.1)	1,578.8	(7.8)	345.4	(1.7)
100～199 床	**5,253.4**	**(26.1)**	13.0	(0.1)	－	－	**4,596.1**	**(22.8)**	644.3	(3.2)
200～299 床	3,217.8	(16.0)	18.8	(0.1)	25.8	(0.1)	2,864.9	(14.2)	308.3	(1.5)
300～399 床	3,006.3	(14.9)	31.4	(0.2)	108.9	(0.5)	2,692.5	(13.4)	173.5	(0.9)
400～499 床	1,930.0	(9.6)	－	－	72.2	(0.4)	1,846.8	(9.2)	11.0	(0.1)
500 床以上	**4,787.8**	**(23.8)**	7.0	(0.0)	202.1	(1.0)	4,577.7	(22.7)	1.0	(0.0)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

4)　正規看護職員数の推移（実人員・換算数）

正規看護職員の推移をみると，令和 5 年度は令和 4 年度に比べ「実人員」は 440 人減少した。「保健師」は 26 人減少し，「助産師」は 15 人，「准看護師」は 356 人減少した。「看護師」は実人員では 43 人減少し，換算数も 190.9 人減少している。（表 7）

表 7　　正規看護職員数の推移

（単位：人）

年度	令和 4 年 4 月 1 日現在					令和 5 年 4 月 1 日現在				
区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
実人員	21,625	104	475	19,160	1,886	**21,185**	**78**	**460**	**19,117**	**1,530**
対前年度						**▲ 440**	**▲ 26**	**▲ 15**	**▲ 43**	**▲ 356**
換算数	20,729.6	100.7	450.3	18,347.7	1,830.9	20,149.3	75.0	434.0	18,156.8	1,483.5
対前年度						▲ 580.3	▲25.7	▲ 16.3	▲ 190.9	▲ 347.4

（参考）看護補助者の状況

正規・正規以外別看護補助者数（実人員・換算数）

令和５年４月１日現在の看護補助者の状況は次のとおりであった。

正規・正規以外別看護補助者数の実人員は 4,339 人で,「正規」2,580 人（59.5%),「正規以外」1,759 人（40.5%）であった。(表 8-①)

換算数は 3,834.5 人で「正規」2532.3 人（66.0%),「正規以外」1,302.2 人（34.0%）であった(表 8-②)

表 8-①　　正規・正規以外別　看護補助者数（実人員）

区分	計	
計	4,339	(100.0)
正規看護補助者	2,580	(59.5)
正規以外看護補助者	1,759	(40.5)

注１　令和５年４月１日現在の実績

注２　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

表 8-②　　正規・正規以外別　看護補助者数（換算数）

区分	計	
計	3,834.5	(100.0)
正規看護補助者	2,532.3	(66.0)
正規以外看護補助者	1,302.2	(34.0)

注１　令和５年４月１日現在の実績

注２　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

3　令和５年度採用状況

令和５年４月１日から４月30日までの正規看護職員の採用状況は次のとおりである。

1)　新卒者・既卒者別採用状況

採用者数は1,473人で，その内訳は「新卒者」1,073人(72.8%)，「既卒者」400人(27.2%)であった。(表9)

表9　　新卒者・既卒者別・職種別 採用者数

（単位：人（%））

区分	計		保健師		助産師		看護師		准看護師	
計	1,473	(100.0)	5	(0.3)	44	(3.0)	1,346	(91.4)	78	(5.3)
新卒者	1,073	(72.8)	3	(0.2)	29	(2.0)	991	(67.3)	50	(3.4)
既卒者	400	(27.2)	2	(0.1)	15	(1.0)	355	(24.1)	28	(1.9)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

2)　保健医療圏域別採用状況

保健医療圏域別の採用状況をみると，新卒者の採用が最も多かったのは「広島」で536人(50.0%)，次いで「福山・府中」169人(15.8%)であった。一方，最も低かったのは「備北」30人(2.8%)であった。既卒者の採用が最も多かったのは「広島」で195人(48.8%)，次いで「福山・府中」79人(19.8%)であった。一方，最も低かったのは「備北」で10人(2.5%)であった。(表10)

表10　　保健医療圏域別・新卒者・既卒者別 採用状況

（単位：人（%））

区分	計		保健師		助産師		看護師		准看護師	
	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者
計	1,073 (100.0)	400 (100.0)	3 (0.3)	2 (0.5)	29 (2.7)	15 (3.8)	991 (92.4)	355 (88.8)	50 (4.7)	28 (7.0)
広島	536 (50.0)	195 (48.8)	1 (0.1)	2 (0.5)	13 (1.2)	3 (0.8)	506 (47.2)	179 (44.8)	16 (1.5)	11 (2.8)
広島西	79 (7.4)	13 (3.3)	－ －	－ －	1 (0.1)	－ －	76 (7.1)	12 (3.0)	2 (0.2)	1 (0.3)
呉	150 (14.0)	37 (9.3)	1 (0.1)	－ －	5 (0.5)	2 (0.5)	136 (12.7)	33 (8.3)	8 (0.7)	2 (0.5)
広島中央	43 (4.0)	37 (9.3)	1 (0.1)	－ －	2 (0.2)	2 (0.5)	36 (3.4)	34 (8.5)	4 (0.4)	1 (0.3)
尾三	66 (6.2)	29 (7.3)	－ －	－ －	2 (0.2)	－ －	62 (5.8)	27 (6.8)	2 (0.2)	2 (0.5)
福山・府中	169 (15.8)	79 (19.8)	－ －	－ －	6 (0.6)	6 (1.5)	145 (13.5)	62 (15.5)	18 (1.7)	11 (2.8)
備北	30 (2.8)	10 (2.5)	－ －	－ －	－ －	2 (0.5)	30 (2.8)	8 (2.0)	－ －	－ －

注　割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

4　正規・常勤看護職員の状況

1)　正規看護職員の平均年齢（令和４年度）

令和４年４月１日現在の平均年齢は 42.1 歳で，平均年齢が最も低い病院は 31.9 歳，最も高い病院は 62.0 歳であった。（表 11-①）

平均年齢を保健医療圏域別にみると，「広島」で「35～39 歳」が最も多く，「広島西」「呉」「広島中央」「尾三」「福山・府中」で「40～44 歳」が最も多く，「備北」で「35～39 歳」「40～44 歳」「45～49 歳」が最も多かった。（表 11-②）

平均年齢を病床規模別にみると，「99 床以下」では「40～44 歳」が最も多く，「100～199 床」では「35～39 歳」が最も多く，「200～299 床」では「45～49 歳」が最も多く，「300～399 床」では「40～44 歳」が最も多く，「400～499 床」では「30～34 歳」が最も多く，「500 床以上」では「35～39 歳」が最も多かった。（表 11-③）

表 11-①　　平均年齢（正規）

平均年齢	最も低い	最も高い
42.1 歳	31.9 歳	62.0 歳

注　令和４年４月１日現在の実績

表 11-②　　平均年齢別・保健医療圏域別 病院数（正規）

（単位：病院（%））

区分	計	広島	広島西	呉	広島中央	尾三	福山・府中	備北
計	184 (100.0)	76 (41.3)	10 (5.4)	23 (12.5)	17 (9.2)	15 (8.2)	36 (19.6)	7 (3.8)
～29 歳	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －
30～34 歳	14 (7.6)	3 (1.6)	2 (1.1)	3 (1.6)	2 (1.1)	－ －	4 (2.2)	－ －
35～39 歳	56 (30.4)	**37** **(20.1)**	1 (0.5)	3 (1.6)	1 (0.5)	3 (1.6)	9 (4.9)	**2** **(1.1)**
40～44 歳	56 (0.0)	16 (8.7)	**4** **(2.2)**	**8** **(4.3)**	**7** **(3.8)**	**8** **(4.3)**	**11** **(6.0)**	**2** **(1.1)**
45～49 歳	43 (23.4)	16 (8.7)	2 (1.1)	5 (2.7)	6 (3.3)	3 (1.6)	9 (4.9)	**2** **(1.1)**
50～54 歳	14 (7.6)	3 (1.6)	1 (0.5)	4 (2.2)	1 (0.5)	1 (0.5)	3 (1.6)	1 (0.5)
55 歳以上	1 (0.5)	1 (0.5)	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －

注１　令和４年４月１日現在の実績

注２　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

表 11-③　　平均年齢別・病床規模別 病院数（正規）

（単位：病院（%））

区分	計	99 床以下	100～199 床	200～299 床	300～399 床	400～499 床	500 床以上
計	184 (100.0)	64 (34.8)	70 (38.0)	25 (13.6)	13 (7.1)	5 (2.7)	7 (3.8)
～29 歳	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －
30～34 歳	14 (7.6)	2 (1.1)	3 (1.6)	1 (0.5)	2 (1.1)	**3** **(1.6)**	3 (1.6)
35～39 歳	56 (30.4)	11 (6.0)	**28** **(15.2)**	7 (3.8)	4 (2.2)	2 (1.1)	**4** **(2.2)**
40～44 歳	56 (30.4)	**25** **(13.6)**	20 (10.9)	6 (3.3)	**5** **(2.7)**	－ －	－ －
45～49 歳	43 (23.4)	20 (10.9)	12 (6.5)	**10** **(5.4)**	1 (0.5)	－ －	－ －
50～54 歳	14 (7.6)	6 (3.3)	6 (3.3)	1 (0.5)	1 (0.5)	－ －	－ －
55 歳以上	1 (0.5)	－ －	1 (0.5)	－ －	－ －	－ －	－ －

注 1　令和 4 年 4 月 1 日現在の実績

注 2　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

2)　常勤看護職員の時間外勤務

(1)　時間外勤務時間の平均と最長

一人当たり月平均時間外勤務時間は 4.4 時間，最長は 75.0 時間であった。（表 12）

表 12　　一人当たり月平均時間外勤務時間（常勤）

平均	最長
4.4 時間	**75.0 時間**

注　令和 5 年 10 月の実績である

(2) 時間外勤務時間数・病床規模別病院数の割合

病床規模別一人当たり月平均の時間外勤務時間数をみると，最も多かったのは「4 時間未満」で 106 病院(57.3%)，次いで「4～8 時間未満」で 41 病院(22.2%)であった。病床規模別の割合をみると「4 時間未満」では「99 床以下」,「4～8 時間未満」では「100～199 床」の割合が高かった。(表 13-①)

最長の時間外勤務時間数別病院数をみると,最も多かったのは「20 時間以上」で 76 病院(41.1%),次いで「4 時間未満」で 29 病院(15.7%)であった。病床規模別の割合をみると「500 床以上」ではすべての病院が「20 時間以上」であった。(表 13-②)

「20 時間以上」の内訳をみると，最も多かったのは 20～25 時間未満で 22 病院(28.9%)であった。(表 13-③)

表 13-①　　病床規模別一人当たり月平均時間外勤務時間（常勤）

（単位：病院（%））

区分	計	4 時間未満	4～8 時間未満	8～12 時間未満	12～16 時間未満	16～20 時間未満	20 時間以上
計	185 (100.0)	106 (57.3)	41 (22.2)	29 (15.7)	8 (4.3)	1 (0.5)	－ －
99 床以下	64 (34.6)	42 (22.7)	14 (7.6)	7 (3.8)	1 (0.5)	－ －	－ －
100～199 床	71 (38.4)	40 (21.6)	16 (8.6)	11 (5.9)	4 (2.2)	－ －	－ －
200～299 床	25 (13.5)	15 (8.1)	5 (2.7)	4 (2.2)	1 (0.5)	－ －	－ －
300～399 床	13 (7.0)	7 (3.8)	3 (1.6)	1 (0.5)	1 (0.5)	1 (0.5)	－ －
400～499 床	5 (2.7)	1 (0.5)	1 (0.5)	3 (1.6)	－ －	－ －	－ －
500 床以上	7 (3.8)	1 (0.5)	2 (1.1)	3 (1.6)	1 (0.5)	－ －	－ －

注 1　令和 5 年 10 月の実績である

注 2　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

表 13-②　　病床規模別一人当たり時間外勤務時間の最長時間数（常勤）

（単位：病院（%））

区分	計	**4 時間未満**	4～8 時間未満	8～12 時間未満	12～16 時間未満	16～20 時間未満	**20 時間以上**
計	**185** (100.0)	**29** **(15.7)**	27 (14.6)	22 (11.9)	15 (8.1)	16 (8.6)	**76** **(41.1)**
99 床以下	64 (34.6)	12 (6.5)	12 (6.5)	12 (6.5)	7 (3.8)	4 (2.2)	17 (9.2)
100～199 床	71 (38.4)	10 (5.4)	11 (5.9)	5 (2.7)	5 (2.7)	7 (3.8)	33 (17.8)
200～299 床	25 (13.5)	7 (3.8)	2 (1.1)	2 (1.1)	1 (0.5)	3 (1.6)	10 (5.4)
300～399 床	13 (7.0)	－ －	2 (1.1)	3 (1.6)	2 (1.1)	1 (0.5)	5 (2.7)
400～499 床	5 (2.7)	－ －	－ －	－ －	－ －	1 (0.5)	4 (2.2)
500 床以上	**7** **(3.8)**	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	**7** **(3.8)**

注 1　令和 5 年 10 月の実績である

注 2　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

表 13-③　　病床規模別一人当たり時間外勤務時間（最長 20 時間以上）（常勤）

（単位：病院（%））

区分	計	**20～25 時間未満**	25～30 時間未満	30～40 時間未満	40～50 時間未満	50～60 時間未満	60 時間以上
計	**76** (100.0)	**22** **(28.9)**	14 (18.4)	21 (27.6)	14 (18.4)	4 (5.3)	1 (1.3)
99 床以下	17 (22.4)	9 (11.8)	5 (6.6)	1 (1.3)	2 (2.6)	－ －	－ －
100～199 床	33 (43.4)	8 (10.5)	7 (9.2)	9 (11.8)	6 (7.9)	3 (3.9)	－ －
200～299 床	10 (13.2)	2 (2.6)	－ －	4 (5.3)	3 (3.9)	1 (1.3)	－ －
300～399 床	5 (6.6)	1 (1.3)	1 (1.3)	1 (1.3)	2 (2.6)	－ －	－ －
400～499 床	4 (5.3)	1 (1.3)	－ －	2 (2.6)	1 (1.3)	－ －	－ －
500 床以上	7 (9.2)	1 (1.3)	1 (1.3)	4 (5.3)	－ －	－ －	1 (1.3)

注 1　令和 5 年 10 月の実績である

注 2　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

3) 正規看護職員の年次有給休暇取得状況

(1) 一人平均取得日数

令和 4 年度における年次有給休暇の一人平均取得日数の平均は 12.2 日，最多が 20.0 日，最少が 1.5 日であった。平均でみると平成 27 年度まで変動がなかったが，平成 28 年度から再び増加した。(表 14)

表 14　　年次有給休暇一人平均取得日数の推移

区分	平均	最多	最少
令和４年度	**12.2 日**	**20.0 日**	**1.5 日**
令和３年度	11.4 日	21.6 日	1.0 日
令和２年度	11.0 日	24.8 日	0.0 日
令和元年度	11.2 日	23.9 日	1.0 日
平成 30 年度	10.4 日	19.9 日	0.8 日
平成 29 年度	10.2 日	20.3 日	1.0 日
平成 28 年度	10.1 日	24.2 日	0.0 日
平成 27 年度	9.9 日	20.8 日	0.0 日
平成 26 年度	9.9 日	26.0 日	0.8 日
平成 25 年度	9.9 日	41.6 日	0.2 日

(2) 時間単位の取得

令和 4 年度における年次有給休暇が時間単位で取得できる病院は 150 病院(81.5%)であった。割合でみると平成 25 年度より年々高くなっていた。(表 15)

表 15　　年次有給休暇，時間単位の取得病院数

区分	計		できる		できない	
令和４年度	**184**	**(100.0)**	**150**	**(81.5)**	**34**	**(18.5)**
令和３年度	196	(100.0)	155	(79.1)	41	(20.9)
令和２年度	193	(100.0)	152	(78.8)	41	(21.2)
令和元年度	191	(100.0)	150	(78.5)	41	(21.5)
平成 30 年度	185	(100.0)	144	(77.8)	41	(22.2)
平成 29 年度	185	(100.0)	143	(77.3)	42	(22.7)
平成 28 年度	190	(100.0)	144	(75.8)	46	(24.2)
平成 27 年度	189	(100.0)	136	(72.0)	53	(28.0)
平成 26 年度	191	(100.0)	88	(46.1)	103	(53.9)
平成 25 年度	209	(100.0)	96	(45.9)	113	(54.1)

5　勤務形態からみた夜勤回数別夜勤人数

1)　常勤看護職員夜勤人数等

「3 交代（変則 3 交代含む)」で夜勤回数 0 回は 53 病院の 1,184 人，最も多かったのは夜勤回数 7 回以下で 62 病院の 2,137 人であった。「2 交代(変則 2 交代含む)」で夜勤回数 0 回は 102 病院の 2,012 人，最も多かったのは夜勤回数 5 回で 139 病院の 2,139 人であった。(表 16-①，表 16-②，表 16-③)

表 16-①　　常勤看護職員 勤務形態別夜勤回数（複数回答）

区分	3 交代（変則 3 交代含む）						2 交代（変則 2 交代含む）				
夜勤回数	**0 回**	**7 回以下**	8 回	9 回	10 回	11 回以上	**0 回**	3 回以下	4 回	**5 回**	6 回以上
病院数	**53**	**62**	57	54	49	39	**102**	136	133	**139**	118
人　数	**1,184**	**2,137**	1,758	1,212	693	494	**2,012**	1,399	1,860	**2,139**	1,614

注 1　常勤看護職員夜勤人数は「新卒含む/夜勤専従者を除く」数字である。

注 2　人数は,交代制勤務の指定夜勤回数に該当する看護職員数である。

注 3　夜勤回数は令和 5 年 10 月実績である。

表 16-②　　病床規模別常勤看護職員 勤務形態別夜勤回数（複数回答）

（単位：病院）

区分	3 交代（変則 3 交代含む）						2 交代（変則 2 交代含む）				
夜勤回数	0 回	**7 回以下**	8 回	9 回	10 回	11 回以上	0 回	3 回以下	4 回	**5 回**	6 回以上
計	53	**62**	57	54	49	39	102	136	133	**139**	118
99 床以下	9	12	10	7	6	9	28	47	43	51	38
100～199 床	17	18	16	17	17	14	46	55	55	55	52
200～299 床	12	15	15	15	13	10	12	18	18	17	16
300～399 床	5	5	5	5	4	2	10	10	10	10	9
400～499 床	5	5	5	5	3	1	2	2	2	2	－
500 床以上	5	7	6	5	6	3	4	4	5	4	3

表 16-③　　病床規模別常勤看護職員 勤務形態別夜勤人数（複数回答）

（単位：人）

区分	3 交代（変則 3 交代含む）						2 交代（変則 2 交代含む）				
夜勤回数	0 回	**7 回以下**	8 回	9 回	10 回	11 回以上	0 回	3 回以下	4 回	**5 回**	6 回以上
計	1,184	**2,137**	1,758	1,212	693	494	2,012	1,399	1,860	**2,139**	1,614
99 床以下	48	82	53	64	27	53	203	164	268	290	219
100～199 床	321	254	170	203	128	129	874	458	575	650	691
200～299 床	268	424	147	181	165	112	307	240	285	343	277
300～399 床	113	263	439	149	34	19	299	214	243	316	269
400～499 床	216	490	420	208	127	33	17	51	68	21	－
500 床以上	218	624	529	407	212	148	312	272	421	519	158

2) 夜勤専従者の有無

夜勤専従者がいる病院は 74 病院(40.0%),「正規看護職員のみ」が 51 病院(27.6%),「正規以外看護職員のみ」が 11 病院(5.9%),「正規・正規以外看護職員」が 12 病院(6.5%)であった。夜勤専従者数は,「実人員」が 661 人,「延べ人員」が「3 交代(変則 3 交代含む)」は 11,553 人,「2 交代(変則 2 交代含む)」は 18,618 人であった。(表 17-①, 表 17-②)

表 17-① 夜勤専従者の有無

(単位:病院(%))

区分	計		夜勤専従者がいる		夜勤専従者がいない	
計	185	(100.0)	74	(40.0)	111	(60.0)
正規看護職員のみ			51	(27.6)	111	(60.0)
正規以外看護職員のみ			11	(5.9)		
正規・正規以外看護職員			12	(6.5)		

注 1 令和 4 年度の実績である

注 2 割合(%)の合計は四捨五入のため 100%にならない

表 17-② 夜勤専従者の人数

(単位:人)

区分		実人員	延べ人員	
			3 交代(変則 3 交代含む)	2 交代(変則 2 交代含む)
計		661	11,553	18,618
正規看護職員のみ		406	7,368	13,382
正規以外看護職員のみ		29	612	837
正規・正規以外看護職員	正規看護職員	201	3,079	3,584
	正規以外看護職員	25	494	815

注 令和 4 年度の実績である

6　看護職員の採用状況

令和 4 年度の正規看護職員の採用状況は次のとおりである。

1)　看護職員採用者数

採用者数は 2,453 人で，内訳をみると「正規看護職員」が「新卒者」1,137 人(46.4%)，「既卒者」987 人(40.2%)，「正規看護職員以外」は 329 人(13.4%)であった。（表 17）

表 18　　新卒者・既卒者別・職種別 採用者数（令和 4 年度）

（単位：人（%））

区分		計		保健師		助産師		看護師		准看護師	
計		2,453	(100.0)	5	(0.2)	52	(2.1)	2,222	(90.6)	174	(7.1)
正規看護職員	新卒者数	1,137	(46.4)	2	(0.1)	31	(1.3)	1,051	(42.8)	53	(2.2)
	既卒者数	987	(40.2)	2	(0.1)	16	(0.7)	885	(36.1)	84	(3.4)
正規看護職員以外		329	(13.4)	1	(0.0)	5	(0.2)	286	(11.7)	37	(1.5)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

2)　正規看護職員採用者数

(1)　保健医療圏域別採用者数

採用者数は「新卒者」が 1,137 人，「既卒者」が 987 人で，保健医療圏域別にみると，最も多かったのは「広島」で「新卒者」547 人(48.1%)，「既卒者」434 人(44.0%)であった。(表 19)

表 19　　保健医療圏域別・新卒者・既卒者別 正規看護職員採用状況（令和 4 年度）

（単位：人（%））

区分	計		保健師		助産師		看護師		准看護師	
	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者
計	1,137 (100.0)	987 (100.0)	2 (0.2)	2 (0.2)	31 (2.7)	16 (1.6)	1,051 (92.4)	885 (89.7)	53 (4.7)	84 (8.5)
広島	547 (48.1)	434 (44.0)	1 (0.1)	1 (0.1)	16 (1.4)	6 (0.6)	511 (44.9)	393 (39.8)	19 (1.7)	34 (3.4)
広島西	85 (7.5)	40 (4.1)	－ －	－ －	－ －	－ －	84 (7.4)	36 (3.6)	1 (0.1)	4 (0.4)
呉	178 (15.7)	87 (8.8)	1 (0.1)	－ －	3 (0.3)	－ －	161 (14.2)	74 (7.5)	13 (1.1)	13 (1.3)
広島中央	53 (4.7)	126 (12.8)	－ －	－ －	1 (0.1)	2 (0.2)	49 (4.3)	117 (11.9)	3 (0.3)	7 (0.7)
尾三	58 (5.1)	109 (11.0)	－ －	1 (0.1)	－ －	2 (0.2)	53 (4.7)	104 (10.5)	5 (0.4)	2 (0.2)
福山・府中	175 (15.4)	172 (17.4)	－ －	－ －	9 (0.8)	3 (0.3)	154 (13.5)	145 (14.7)	12 (1.1)	24 (2.4)
備北	41 (3.6)	19 (1.9)	－ －	－ －	2 (0.2)	3 (0.3)	39 (3.4)	16 (1.6)	－ －	－ －

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

(2) 病床規模別採用者数

病床規模別に採用者数をみると,「新卒者」で最も多かったのは「500床以上」で332人(29.2%),「既卒者」で最も多かったのは「100～199床」で451人(45.7%)であった。(表20)

表20　病床規模別・新卒者・既卒者別 正規看護職員採用状況（令和4年度）

（単位：人（%））

区分	計		保健師		助産師		看護師		准看護師	
	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者
計	**1,137** (100.0)	**987** (100.0)	2 (0.2)	2 (0.2)	31 (2.7)	16 (1.6)	1,051 (92.4)	885 (89.7)	53 (4.7)	84 (8.5)
99床以下	51 (4.5)	211 (21.4)	－ －	－ －	3 (0.3)	3 (0.3)	34 (3.0)	188 (19.0)	14 (1.2)	20 (2.0)
100～199床	277 (24.4)	**451** **(45.7)**	1 (0.1)	1 (0.1)	－ －	－ －	247 (21.7)	416 (42.1)	29 (2.6)	34 (3.4)
200～299床	160 (14.1)	168 (17.0)	－ －	1 (0.1)	1 (0.1)	1 (0.1)	153 (13.5)	146 (14.8)	6 (0.5)	20 (2.0)
300～399床	141 (12.4)	103 (10.4)	1 (0.1)	－ －	6 (0.5)	5 (0.5)	132 (11.6)	88 (8.9)	2 (0.2)	10 (1.0)
400～499床	176 (15.5)	32 (3.2)	－ －	－ －	7 (0.6)	2 (0.2)	167 (14.7)	30 (3.0)	2 (0.2)	－ －
500床以上	**332** **(29.2)**	22 (2.2)	－ －	－ －	14 (1.2)	5 (0.5)	318 (28.0)	17 (1.7)	－ －	－ －

注　割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

3) 正規以外看護職員採用者数

(1) 保健医療圏域別採用者数

採用者数は329人で，保健医療圏域別にみると，最も多かったのは「広島」で178人(54.1%)であった。(表21)

表 21　　保健医療圏域別　正規以外看護職員採用状況（令和 4 年度）

（単位：人（%））

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	**329** (100.0)	1 (0.3)	5 (1.5)	286 (86.9)	37 (11.2)
広島	**178** **(54.1)**	1 (0.3)	1 (0.3)	162 (49.2)	14 (4.3)
広島西	8 (2.4)	－ －	－ －	7 (2.1)	1 (0.3)
呉	29 (8.8)	－ －	－ －	24 (7.3)	5 (1.5)
広島中央	20 (6.1)	－ －	－ －	17 (5.2)	3 (0.9)
尾三	36 (10.9)	－ －	－ －	33 (10.0)	3 (0.9)
福山・府中	47 (14.3)	－ －	1 (0.3)	36 (10.9)	10 (3.0)
備北	11 (3.3)	－ －	3 (0.9)	7 (2.1)	1 (0.3)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

(2)　**病床規模別採用者数**

病床規模別に採用者数をみると，最も多かったのは「100～199 床」で 127 人(38.6%)であった。（表 22）

表 22　　病床規模別 正規以外看護職員採用状況（令和 4 年度）

（単位：人（%））

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	**329** (100.0)	1 (0.3)	5 (1.5)	286 (86.9)	37 (11.2)
99 床以下	53 (16.1)	－ －	－ －	39 (11.9)	14 (4.3)
100～199 床	**127** **(38.6)**	1 (0.3)	－ －	108 (32.8)	18 (5.5)
200～299 床	69 (21.0)	－ －	2 (0.6)	66 (20.1)	1 (0.3)
300～399 床	40 (12.2)	－ －	3 (0.9)	33 (10.0)	4 (1.2)
400～499 床	16 (4.9)	－ －	－ －	16 (4.9)	－ －
500 床以上	24 (7.3)	－ －	－ －	24 (7.3)	－ －

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

7　看護職員の離職状況

令和 4 年度の正規看護職員の離職状況は次のとおりである。

1)　正規看護職員離職者数

正規看護職員の離職者数は 2,224 人，内訳をみると定年退職者は 181 人(8.1%)，新卒離職者は 140 人（6.3%)であった。定年退職・新卒離職者以外は 1,903 人(85.6%)であった。（表 23）

表 23　　正規看護職員離職者数

（単位：人（%））

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
離職者数	**2,224**	7	52	1,943	222
	(100.0)	(0.3)	(2.3)	(87.4)	(10.0)
(1) 定年退職者数	**181**	－	1	143	37
(定年退職者の割合)	**(8.1)**	－	(0.0)	(6.4)	(1.7)
(2) 新卒離職者数	**140**	－	1	124	15
(新卒離職者の割合)	**(6.3)**	－	(0.0)	(5.6)	(0.7)
(3) (1),(2)以外離職者数	**1,903**	7	50	1,676	170
((1),(2)以外離職者の割合)	**(85.6)**	(0.3)	(2.2)	(75.4)	(7.6)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

(1)　保健医療圏域別・職種別離職者数・離職率

離職者数は 2,224 人で，離職率は 10.6%であった。保健医療圏域別にみると，離職者数が最も多かったのは「広島」1,057 人，離職率が最も高かったのは「広島中央」14.8%であった。(表 24)

表 24　　保健医療圏域別・職種別 正規看護職員離職者数・離職率

（単位：人（%））

区分	計（離職率）		保健師	助産師	看護師	准看護師
計	**2,224**	**(10.6)**	7	52	1,943	222
広島	**1,057**	(10.9)	4	18	944	91
広島西	151	(11.4)	－	4	139	8
呉	226	(10.2)	3	5	192	26
広島中央	239	**(14.8)**	－	11	206	22
尾三	135	(7.1)	－	1	118	16
福山・府中	338	(9.5)	－	8	278	52
備北	78	(11.6)	－	5	66	7

注　離職者数は定年退職者を含む

(2) 病床規模別・職種別離職者数・離職率

病床規模別にみると，離職者数が最も多かったのは「100～199 床」709 人であった。離職率が最も高かったのも「100～199 床」13.6%であった。(表 25)

表 25　病床規模別・職種別 正規看護職員離職者数・離職率

（単位：人（%））

区分	計（離職率）		保健師	助産師	看護師	准看護師
計	2,224	(10.6)	7	52	1,943	222
99 床以下	243	(11.7)	－	3	190	50
100～199 床	**709**	**(13.6)**	5	－	618	86
200～299 床	332	(9.6)	－	4	273	55
300～399 床	313	(9.8)	2	14	272	25
400～499 床	231	(11.6)	－	16	210	5
500 床以上	396	(7.9)	－	15	380	1

注　離職者数は定年退職者を含む

2) 定年退職者数

(1) 保健医療圏域別・職種別定年退職者数

定年退職者数は 181 人で，保健医療圏別にみると，最も多かったのは「広島」66 人(36.5%)，うち 54 人が「看護師」であった。(表 26)

表 26　保健医療圏域別・職種別 正規看護職員定年退職者数

（単位：人（%））

区分	計		保健師	助産師	**看護師**	准看護師
計	181	(100.0)	－	1	143	37
広島	**66**	**(36.5)**	－	－	**54**	12
広島西	8	(4.4)	－	－	8	－
呉	8	(4.4)	－	－	6	2
広島中央	32	(17.7)	－	－	23	9
尾三	31	(17.1)	－	－	23	8
福山・府中	26	(14.4)	－	1	19	6
備北	10	(5.5)	－	－	10	－

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

(2) 病床規模別・職種別定年退職者数

病床規模別定年退職者数をみると，最も多かったのは「200～299 床」で 50 人(27.6%)，次いで「100～199 床」40 人(22.1%)であった。(表 27)

表 27　病床規模別・職種別 正規看護職員定年退職者数

（単位：人（%））

区分	計		保健師	助産師	看護師	准看護師
計	**181**	(100.0)	－	1	143	37
99 床以下	17	(9.4)	－	－	10	7
100～199 床	**40**	**(22.1)**	－	－	30	10
200～299 床	**50**	**(27.6)**	－	1	38	11
300～399 床	30	(16.6)	－	－	25	5
400～499 床	17	(9.4)	－	－	14	3
500 床以上	27	(14.9)	－	－	26	1

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

3) 新卒看護職員の離職者数・離職率

新卒看護職員の離職者数は 140 人，離職率は 12.3%であった。保健医療圏域別にみると，離職率が最も高かったのは「広島中央」で 30.2%であった。最も低かったのは「備北」で 4.9%であった。(表 28-①)

病床規模別にみると，離職率が最も高かったのは「99 床以下」で 19.6%であった。最も低かったのは「300～399 床」で 6.4%であった。(表 28-②)

表 28-①　保健医療圏域別 正規看護職員新卒離職者数・離職率

（単位：人（%））

区分	計 (離職率)	広島	広島西	呉	**広島 中央**	尾三	福山・ 府中	**備北**
新卒採用者数	1,137	547	85	178	53	58	175	41
新卒離職者数	**140**	84	5	15	16	6	12	2
離職率(%)	**(12.3)**	(15.4)	(5.9)	(8.4)	**(30.2)**	(10.3)	(6.9)	**(4.9)**

表 28-②　病床規模別・職種別 正規看護職員新卒離職者数・離職率

（単位：人（%））

区分	計 (離職率)	**99 床 以下**	100～ 199 床	200～ 299 床	**300～ 399 床**	400～ 499 床	500 床 以上
新卒採用者数	1,137	51	277	160	141	176	332
新卒離職者数	140	10	44	26	9	24	27
離職率(%)	(12.3)	**(19.6)**	(15.9)	(16.3)	**(6.4)**	(13.6)	(8.1)

4) 定年退職及び新卒離職以外の離職者数

(1) 保健医療圏域別・職種別定年退職・新卒離職以外の離職者数

保健医療圏域別離職者数をみると，最も多かったのは「広島」907 人(47.7%)，うち 814 人が「看護師」であった。(表 29)

表 29　保健医療圏域別・職種別 定年退職・新卒離職以外の離職者数

（単位：人（%））

区分	計		保健師	助産師	**看護師**	准看護師
計	**1,903**	(100.0)	7	50	1,676	170
広島	**907**	**(47.7)**	4	18	**814**	71
広島西	138	(7.3)	－	4	126	8
呉	203	(10.7)	3	5	175	20
広島中央	191	(10.0)	－	11	168	12
尾三	98	(5.1)	－	1	90	7
福山・府中	300	(15.8)	－	6	249	45
備北	66	(3.5)	－	5	54	7

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

(2) 病床規模別・職種別定年退職・新卒離職以外の離職者数

病床規模別離職者数をみると，最も多かったのは「100～199 床」625 人(32.8%)，うち 551 人が「看護師」であった。次いで「500 床以上」342 人(18.0%)，うち 327 人が「看護師」であった。(表 30)

表 30　病床規模別・職種別 定年退職・新卒離職以外の離職者数

（単位：人（%））

区分	計		保健師	助産師	**看護師**	准看護師
計	**1,903**	(100.0)	7	50	1,676	170
99 床以下	216	(11.4)	－	2	175	39
100～199 床	**625**	**(32.8)**	5	－	**551**	69
200～299 床	256	(13.5)	－	3	212	41
300～399 床	274	(14.4)	2	14	238	20
400～499 床	190	(10.0)	－	16	173	1
500 床以上	**342**	**(18.0)**	－	15	**327**	－

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

5) 正規以外看護職員離職者数

(1) 保健医療圏域別・職種別離職者数・離職率

離職者数は 394 人で，離職率は 16.7%であった。保健医療圏域別にみると，離職者数が最も多かったのは「広島」で 217 人，離職率が最も高かったのも「広島」で 22.1%であった。(表 31)

表 31　保健医療圏域別・職種別 正規以外看護職員離職者数・離職率

（単位：人（%））

区分	計（離職率）		保健師	助産師	看護師	准看護師
計	**394**	**(16.7)**	2	8	296	88
広島	**217**	**(22.1)**	2	1	175	39
広島西	14	(13.5)	－	4	7	3
呉	36	(12.1)	－	－	28	8
広島中央	35	(18.0)	－	－	23	12
尾三	29	(9.5)	－	1	20	8
福山・府中	52	(13.8)	－	－	36	16
備北	11	(11.2)	－	2	7	2

注　離職者数は契約期間満了退職者を含む

(2) 病床規模別・職種別離職者数・離職率

病床規模別にみると，離職者数が最も多かったのは「100～199 床」で 159 人であった。離職率が最も高かったのは「200～299 床」で 23.1%であった。(表 32)

表 32　病床規模別・職種別 正規以外看護職員離職者数・離職率

（単位：人（%））

区分	計（離職率）		保健師	助産師	看護師	准看護師
計	**394**	**(16.7)**	2	8	296	88
99 床以下	51	(14.2)	－	－	36	15
100～199 床	**159**	(18.3)	2	4	106	47
200～299 床	96	**(23.1)**	－	1	77	18
300～399 床	39	(12.9)	－	3	30	6
400～499 床	26	(16.9)	－	－	24	2
500 床以上	23	(8.9)	－	－	23	－

注　離職者数は契約期間満了退職者を含む

8　特別休暇等の取得状況

令和４年度の正規看護職員の特別休暇等取得状況は次のとおりである。

1)　育児休業取得職員数

(1)　保健医療圏域別・職種別育児休業取得職員数

令和５年３月 31 日現在の育児休業取得職員数は 1,293 人(6.2%)であった。保健医療圏域別にみると，最も多かったのは「広島」694 人，うち 670 人が「看護師」であった。次いで「福山・府中」223 人，うち 209 人が「看護師」であった。(表 33)

表 33　　保健医療圏域別・職種別 育児休業取得職員数（実人員）

（単位：人（%））

区分	計		保健師		助産師		**看護師**		准看護師	
平均正規看護職員数	20,957.0	(100.0)	98.5	(0.5)	460.5	(2.2)	18,784.0	(89.6)	1,614.0	(7.7)
計	**1,293**	**(6.2)**	4	(0.0)	32	(0.2)	1,232	(5.9)	25	(0.1)
広島	**694**	**(3.3)**	1		14		**670**		9	
広島西	87	(0.4)	－		1		85		1	
呉	117	(0.6)	2		6		105		4	
広島中央	66	(0.3)	－		－		64		2	
尾三	71	(0.3)	－		－		69		2	
福山・府中	**223**	**(1.1)**	1		8		**209**		5	
備北	35	(0.2)	－		3		30		2	

注１　令和５年３月 31 日現在の実績

注２　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

(2)　病床規模別・職種別育児休業取得職員数

病床規模別の育児休業取得職員数をみると，最も多かったのは「500 床以上」497 人，うち 479 人が「看護師」であった。次いで「100～199 床」247 人，うち 235 人が「看護師」であった。(表 34)

表 34　　病床規模別・職種別 育児休業取得職員数（実人員）

（単位：人（%））

区分	計		保健師		助産師		**看護師**		准看護師	
平均正規看護職員数	20,957.0	(100.0)	98.5	(0.5)	460.5	(2.2)	18,784.0	(89.6)	1,614.0	(7.7)
計	**1,293**	**(6.2)**	4	(0.0)	32	(0.2)	1,232	(5.9)	25	(0.1)
99 床以下	84	(0.4)	－		4		74		6	
100～199 床	**247**	**(1.2)**	1		－		**235**		11	
200～299 床	171	(0.8)	1		2		162		6	
300～399 床	180	(0.9)	2		5		171		2	
400～499 床	114	(0.5)	－		3		111		－	
500 床以上	**497**	**(2.4)**	－		18		**479**		－	

注１　令和５年３月 31 日現在の実績

注２　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

2) 介護休業取得職員数

(1) 保健医療圏域別・職種別介護休業取得職員数

令和5年3月31日現在の介護休業取得職員数は9人(0.0%)であった。保健医療圏域別にみると，最も多かったのは「広島」4人で，うちすべて「看護師」であった。(表35)

表35　保健医療圏域別・職種別 介護休業取得職員数（実人員）

（単位：人（%））

区分	計		保健師		助産師		**看護師**		准看護師	
平均正規看護職員数	20,957.0	(100.0)	98.5	(0.5)	460.5	(2.2)	18,784.0	(89.6)	1,614.0	(7.7)
計	**9**	**(0.0)**	−	−	−	−	8	(0.0)	1	(0.0)
広島	**4**	**(0.0)**		−		−	**4**			−
広島西	0	(0.0)		−		−		−		−
呉	1	(0.0)		−		−		−		1
広島中央	1	(0.0)		−		−		1		−
尾三	0	(0.0)		−		−		−		−
福山・府中	3	(0.0)		−		−		3		−
備北	0	(0.0)		−		−		−		−

注1　令和5年3月31日現在の実績

注2　割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

(2) 病床規模別・職種別介護休業取得職員数

病床規模別の介護休業取得職員数をみると，最も多かったのは「100床～199床」で，うち3人が「看護師」であった。(表36)

表36　病床規模別・職種別 介護休業取得職員数（実人員）

（単位：人（%））

区分	計		保健師		助産師		**看護師**		准看護師	
平均正規看護職員数	20,957.0	(100.0)	98.5	(0.5)	460.5	(2.2)	18,784.0	(89.6)	1,614.0	(7.7)
計	**9**	**(0.0)**	−	−	−	−	8	(0.0)	1	(0.0)
99床以下	0	(0.0)		−		−		−		−
100～199床	**4**	**(0.0)**		−		−	**3**			1
200～299床	2	(0.0)		−		−		2		−
300～399床	1	(0.0)		−		−		1		−
400～499床	1	(0.0)		−		−		1		−
500床以上	1	(0.0)		−		−		1		−

注1　令和5年3月31日現在の実績

注2　割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

3) 時間短縮勤務職員数

(1) 保健医療圏域別・職種別時間短縮勤務職員数

令和5年3月31日現在の時間短縮勤務職員数は1,122人(5.4%)であった。保健医療圏域別にみると，最も多かったのは「広島」564人，うち533人が「看護師」であった。次いで「福山・府中」261人，うち249人が「看護師」であった。(表37)

表37　保健医療圏域別・職種別 時間短縮勤務中の職員数（実人員）

（単位：人（%））

区分	計		保健師		助産師		**看護師**		准看護師	
平均正規看護職員数	20,957.0	(100.0)	98.5	(0.5)	460.5	(2.2)	18,784.0	(89.6)	1,614.0	(7.7)
計	**1,122**	**(5.4)**	7	(0.0)	26	(0.1)	1,064	(5.1)	25	(0.1)
広島	**564**	**(2.7)**	3		19		**533**		9	
広島西	60	(0.3)	−		1		59		−	
呉	53	(0.3)	2		−		50		1	
広島中央	48	(0.2)	−		−		42		6	
尾三	104	(0.5)	1		−		102		1	
福山・府中	**261**	**(1.2)**	−		5		**249**		7	
備北	32	(0.2)	1		1		29		1	

注1　令和5年3月31日現在の実績

注2　割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

(2) 病床規模別・職種別時間短縮勤務職員数

病床規模別に時間短縮勤務職員数をみると，最も多かったのは「500床以上」367人，うち353人が「看護師」であった。次いで「300～399床」217人，うち207人が「看護師」であった。(表38)

表38　病床規模別・職種別 時間短縮勤務中の職員数（実人員）

（単位：人（%））

区分	計		保健師		助産師		**看護師**		准看護師	
平均正規看護職員数	20,957.0	(100.0)	98.5	(0.5)	460.5	(2.2)	18,784.0	(89.6)	1,614.0	(7.7)
計	**1,122**	**(5.4)**	7	(0.0)	26	(0.1)	1,064	(5.1)	25	(0.1)
99床以下	72	(0.3)	−		−		63		9	
100～199床	187	(0.9)	1		−		175		11	
200～299床	171	(0.8)	2		−		166		3	
300～399床	**217**	**(1.0)**	4		4		**207**		2	
400～499床	108	(0.5)	−		8		100		−	
500床以上	**367**	**(1.8)**	−		14		**353**		−	

注1　令和5年3月31日現在の実績

注2　割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

4) 病休・休職等職員数

(1) 保健医療圏域別・職種別病休・休職等職員数

病休・休職等職員数は 582 人(2.8%)であった。保健医療圏域別にみると，最も多かったのは「広島」272 人，うち 252 人が「看護師」であった。次いで「福山・府中」121 人，うち 115 人が「看護師」であった。(表 39)

表 39　保健医療圏域別・職種別 病休・休職等職員数（実人員）

（単位：人（%））

区分	計		保健師		助産師		**看護師**		准看護師	
平均正規看護職員数	20,957.0	(100.0)	98.5	(0.5)	460.5	(2.2)	18,784.0	(89.6)	1,614.0	(7.7)
計	**582**	**(2.8)**	1	(0.0)	12	(0.1)	532	(2.5)	37	(0.2)
広島	**272**	**(1.3)**	1		5		**252**		14	
広島西	35	(0.2)	−		−		32		3	
呉	37	(0.2)	−		1		32		4	
広島中央	34	(0.2)	−		−		30		4	
尾三	57	(0.3)	−		5		47		5	
福山・府中	**121**	**(0.6)**	−		1		**115**		5	
備北	26	(0.1)	−		−		24		2	

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

(2) 病床規模別・職種別病休・休職等職員数

病床規模別の病休・休職等職員数をみると，最も多かったのは「100～199 床」177 人，うち 157 人が「看護師」であった。次いで「500 床以上」142 人，うち 137 が「看護師」であった。(表 40)

表 40　病床規模別・職種別 病休・休職等職員数（実人員）

（単位：人（%））

区分	計		保健師		助産師		**看護師**		准看護師	
平均正規看護職員数	20,957.0	(100.0)	98.5	(0.5)	460.5	(2.2)	18,784.0	(89.6)	1,614.0	(7.7)
計	**582**	**(2.8)**	1	(0.0)	12	(0.1)	532	(2.5)	37	(0.2)
99 床以下	37	(0.2)	−		−		30		7	
100～199 床	**177**	**(0.8)**	1		−		**157**		19	
200～299 床	80	(0.4)	−		−		77		3	
300～399 床	104	(0.5)	−		6		91		7	
400～499 床	42	(0.2)	−		1		40		1	
500 床以上	**142**	**(0.7)**	−		5		**137**		−	

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

9　母性保護，育児・介護休業に関する制度について

1)　制度の導入・利用について

(1)　母性保護制度の導入・利用の有無

母性保護制度を導入しているかについて「はい」と回答した病院は160病院(87.0%)であった。「はい」と回答した病院のうち，最も多く導入されている制度は「夜勤・当直免除」で，151病院であった。最も多く利用があった制度も「夜勤・当直免除」で，127病院であった。(表41)

表41　　母性保護制度の導入の有無

（単位：病院（%））

区分	病院数	
計	184	(100.0)
※はい	**160**	**(87.0)**
いいえ	24	(13.0)

※「はい」の内容（複数回答）

制　　度	導入がある	利用がある
夜勤・当直免除	**151**	**127**
夜勤・当直日数減	149	126
超過勤務免除	126	80
変形労働時間の適用除外	78	45
時差通勤	74	31
つわり休暇	53	21
通院休暇 （保健指導・検診受診時間の確保等）	91	56
配置転換	119	43

「その他導入している制度の具体的内容」
・生理休暇
・WLBS休暇
・業務軽減
・危険有害業務の就業制限
・母子健康管理指導事項連絡カードによる対応
・妊娠中の休息・捕食
・妊娠中の通勤緩和

(2) 育児休業制度の導入・利用の有無

育児休業制度を導入しているかについて「はい」と回答した病院は 184 病院(100%)であった。最も多く導入されている制度は「育児休業」で，184 病院であった。最も多く利用があった制度も「育児休業」で，167 病院であった。(表 42)

表 42　育児休業制度の導入の有無

（単位：病院（%））

区分	病院数	
計	184	(100.0)
※はい	**184**	**(100.0)**
いいえ	－	－

※「はい」の内容（複数回答）

制　　度	導入がある	利用がある
育児休業	**184**	**167**
子の看護休暇	167	129
所定外労働の制限	141	88
時間外労働制限	141	86
深夜業の制限	157	119
短時間勤務	175	139
フレックスタイム制	18	7
始業・終業時間の繰上げ・繰下げ	92	63
託児施設の設置運営	88	84

「その他導入している制度の具体的内容」
・病児保育
・男性職員の育児参加の休暇
・妻の出産に伴う休暇
・職場復帰プログラム
・育児を行う職員の早出遅出勤務

(3) 介護休業制度の導入・利用の有無

介護休業制度を導入しているかについて「はい」と回答した病院は177病院(96.2%)であった。「はい」と回答した病院のうち，最も多く導入されている制度は「介護休暇」で171病院であった。最も多く利用があった制度も「介護休暇」で79病院であった。(表43)

表43　介護休業制度の導入の有無

（単位：病院（%））

区分	病院数	
計	184	(100.0)
※はい	**177**	**(96.2)**
いいえ	7	(3.8)

※「はい」の内容（複数回答）

制　　度	導入がある	利用がある
介護休業	168	73
介護休暇	**171**	**79**
時間外労働の制限	127	29
深夜業の制限	128	30
短時間勤務	124	25
フレックスタイム制	18	1
始業・終業時間の繰上げ・繰下げ	73	15
介護サービス費用の助成	10	2

「その他導入している制度の具体的内容」
・介護を行う職員の早出遅出勤務
・介護を行う職員の所定時間外勤務の免除

10　研修体制やキャリアアップに関する支援

1)　教育研修体制

「継続教育研修プログラム」が「あり」は 137 病院(74.1%)であった。病床規模別にみると「400～499 床」「500 床以上」ではすべての病院が「あり」であった。(表 44-①)

「看護部門における教育研修責任者の配置」が「あり」は 146 病院(78.9%)であった。病床規模別にみると「300～399」「400～499 床」「500 床以上」ではすべての病院が「あり」であった。(表 44-②)

「病棟・外来などでの教育担当者の配置」が「あり」は 150 病院 (81.1%)であった。病床規模別にみると「400～499 床」「500 床以上」ではすべての病院が「あり」であった。(表 44-③)

「新規採用者の教育研修計画」を対象者別にみると「新卒採用者」で「あり」は 152 病院(82.6%),うち「厚労省のガイドラインに沿った研修体制」が「あり」は 124 病院(67.4%)であった。「既卒採用者」で「あり」は 150 病院(81.5%),「看護補助者」で「あり」は 148 病院(80.4%)であった。病床規模別にみると「新卒採用者」で「400～499 床」「500 床以上」ではすべての病院が「あり」,「既卒採用者」で「400～499 床」ではすべての病院が「あり」,「看護補助者」で「400～499 床」「500 床以上」ではすべての病院が「あり」であった。(表 44-④)

表 44-①　　病床規模別継続教育研修プログラム

（単位：病院（%））

区分	計		あり		なし	
計	185	(100.0)	137	(74.1)	48	(25.9)
99 床以下	64	(34.6)	30		34	
100～199 床	71	(38.4)	62		9	
200～299 床	25	(13.5)	22		3	
300～399 床	13	(7.0)	11		2	
400～499 床	5	(2.7)	5		-	
500 床以上	7	(3.8)	7		-	

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

表 44-②　　病床規模別看護部門における教育研修責任者の配置

（単位：病院（%））

区分	計		あり			なし	
			計		専従	兼任	
計	185	(100.0)	146	(78.9)	17 (9.2)	129 (69.7)	39 (21.1)
99 床以下	64	(34.6)	36		-	36	28
100～199 床	71	(38.4)	61		1	60	10
200～299 床	25	(13.5)	24		3	21	1
300～399 床	13	(7.0)	13		5	8	-
400～499 床	5	(2.7)	5		3	2	-
500 床以上	7	(3.8)	7		5	2	-

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

表 44-③　　病床規模別病棟・外来などでの教育担当者の配置

（単位：病院（%））

区分	計		あり			なし
			計	専従	兼任	
計	185	(100.0)	150 (81.1)	－ －	150 (81.1)	35 (18.9)
99 床以下	64	(34.6)	42	－	42	22
100～199 床	71	(38.4)	61	－	61	10
200～299 床	25	(13.5)	24	－	24	1
300～399 床	13	(7.0)	11	－	11	2
400～499 床	5	(2.7)	5	－	5	－
500 床以上	7	(3.8)	7	－	7	－

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

表 44-④　　病床規模別新規採用者の教育研修計画

（単位：病院（%））

区分	計		新卒採用者				既卒採用者		看護補助者	
			あり			なし	あり	なし	あり	なし
			計	厚労省のガイドラインに沿った研修体制						
				あり	なし					
計	184	(100.0)	152 (82.6)	124 (67.4)	28 (15.2)	32 (17.4)	150 (81.5)	35 (19.0)	148 (80.4)	37 (20.1)
99 床以下	63	(34.2)	40	25	15	23	47	17	43	21
100～199 床	71	(38.6)	65	54	11	6	59	12	58	13
200～299 床	25	(13.6)	25	24	1	－	23	2	23	2
300～399 床	13	(7.1)	10	9	1	3	10	3	12	1
400～499 床	5	(2.7)	5	5	－	－	5	－	5	－
500 床以上	7	(3.8)	7	7	－	－	6	1	7	－

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

2) キャリアアップのための支援

(1) 進学の支援の有無

「大学，大学院等」への進学支援が「あり」は 69 病院(37.3%)であった。「看護師養成所(通信制含む)」への進学支援が「あり」は 126 病院(68.1%)であった。

「あり」の内容をみると,「大学,大学院等」,「看護師養成所(通信制含む)」ともに「勤務調整」が最も多かった。次いで「看護師養成所(通信制含む)」では「奨学金制度」が多かった。(表 45)

表 45　　進学支援の有無

（単位：病院（%））

区分	計	※あり	なし
大学，大学院等	185　(100.0)	**69　(37.3)**	116　(62.7)
看護師養成所 (通信制含む)	185　(100.0)	**126　(68.1)**	59　(31.9)

※「あり」の内容（複数回答）

区分	**奨学金制度**	休職制度	**勤務調整**	代替職員の配置	旅費の援助	授業料の援助
大学，大学院等	22	27	**44**	5	6	6
看護師養成所 (通信制含む)	**69**	22	**94**	5	8	16

(2) 資格取得の支援の有無

「看護管理者資格取得」の支援が「あり」は 134 病院(72.4%)，「専門看護師資格取得」の支援が「あり」は 79 病院(42.7%)，「認定看護師資格取得」の支援が「あり」は 113 病院(61.1%)，「特定行為研修」の支援が「あり」は 82 病院(44.3%)「国内外留学」の支援が「あり」は 23 病院(12.4%)であった。

「あり」の内容をみると，各資格取得では「勤務調整」が最も多かった。次いで「授業料の援助」,「休職制度」の支援が多かった。(表 46)

表 46　資格取得の支援の有無

（単位：病院（%））

区分	計		※あり		なし	
看護管理者	185	(100.0)	**134**	**(72.4)**	51	(27.6)
専門看護師	185	(100.0)	**79**	**(42.7)**	106	(57.3)
認定看護師	185	(100.0)	**113**	**(61.1)**	72	(38.9)
特定行為研修	185	(100.0)	**82**	**(44.3)**	103	(55.7)
国内外留学	185	(100.0)	**23**	**(12.4)**	162	(87.6)

※「あり」の内容（複数回答）

区分	奨学金制度	**休職制度**	**勤務調整**	代替職員の配置	旅費の援助	**授業料の援助**
看護管理者	8	6	**112**	1	77	**92**
専門看護師	14	24	**63**	7	37	**38**
認定看護師	23	31	**91**	13	73	**79**
特定行為研修	10	18	**64**	10	50	**58**
国内外留学	2	**8**	**15**	2	4	2

11　働きやすい職場づくりのための取り組み

1)　働きやすい職場づくりを進めていく上での問題

働きやすい職場づくりを進めていく上での問題について最も多かったのは「代替職員の確保」122病院(24.4%)，次いで「業務が忙しく取り組む余裕がない」63病院(12.6%)であった。順位1，2では「代替職員の確保」が最も多く，順位3では「業務効率の悪化」が最も多かった。(表47)

表47　　働きやすい職場づくりを進めていく上での問題

（単位：病院（%））

区分	計		順位1		順位2		順位3	
計	499	(100.0)	184	(100.0)	166	(100.0)	149	(100.0)
進め方がわからない	10	(2.0)	2	(1.1)	2	(1.2)	6	(4.0)
相談先がわからない	4	(0.8)	1	(0.5)	2	(1.2)	1	(0.7)
効果が不透明	13	(2.6)	5	(2.7)	3	(1.8)	5	(3.4)
代替職員の確保	**122**	**(24.4)**	**77**	**(41.8)**	**31**	**(18.7)**	14	(9.4)
制度を利用していない職員との不公平感	56	(11.2)	14	(7.6)	21	(12.7)	21	(14.1)
保育サービスの不足	45	(9.0)	13	(7.1)	14	(8.4)	18	(12.1)
職員が制度を利用しない	6	(1.2)	2	(1.1)	2	(1.2)	2	(1.3)
業務が忙しく取り組む余裕がない	**63**	**(12.6)**	17	(9.2)	28	(16.9)	18	(12.1)
院内で制度を利用しにくい雰囲気がある	7	(1.4)	－	－	2	(1.2)	5	(3.4)
コストの増加	53	(10.6)	9	(4.9)	28	(16.9)	16	(10.7)
業務効率の悪化	53	(10.6)	7	(3.8)	24	(14.5)	**22**	**(14.8)**
院内でワークライフバランスへの理解が進んでいない	19	(3.8)	3	(1.6)	4	(2.4)	12	(8.1)
院長等トップの理解がない	16	(3.2)	10	(5.4)	2	(1.2)	4	(2.7)
特に問題はない	14	(2.8)	11	(6.0)	1	(0.6)	2	(1.3)
その他	18	(3.6)	13	(7.1)	2	(1.2)	3	(2.0)

「その他」の具体的内容
・人員不足
・医師との連携不足
・人事評価制度がない
・夜勤要員，日・祝日勤務者の不足
・看護補助者の確保
・学童保育の不足
・施設単独で自由に決められない（本部，労使関連）
・制度の理解に差がある(12施設)
・事務方のナースの業務負担軽減が薄く経営中心（12施設）
・経営者の理解が得られない（13施設）
・仕事中に手を止めて上司やスタッフの悪口を言う声の大きいスタッフの存在（9施設）
・業務効率化の遅延（8施設）
・通常業務に改善点がある（8施設）
・部署による業務量の不平等（8施設）

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

(1)　保健医療圏域別働きやすい職場づくりを進めていく上での問題

働きやすい職場づくりを進めていく上での問題を保健医療圏域別にみると,「広島」「広島西」「呉」「広島中央」「尾三」「福山・府中」「備北」のすべてが「代替職員の確保」が最も多かったが「備北」では「業務が忙しく取り組む余裕がない」も多かった。(表 48)

表 48　　保健医療圏域別働きやすい職場づくりを進めていく上での問題

（単位：病院（%））

区分	計	広島	広島西	呉	広島中央	尾三	福山・府中	備北
計	499 (100.0)	207 (100.0)	28 (100.0)	65 (100.0)	42 (100.0)	41 (100.0)	99 (100.0)	17 (100.0)
進め方がわからない	10 (2.0)	5 (2.4)	－ －	1 (1.5)	－ －	1 (2.4)	3 (3.0)	－ －
相談先がわからない	4 (0.8)	3 (1.4)	－ －	1 (1.5)	－ －	－ －	－ －	－ －
効果が不透明	13 (2.6)	6 (2.9)	1 (3.6)	－ －	2 (4.8)	3 (7.3)	1 (1.0)	－ －
代替職員の確保	**122** **(24.4)**	**45** **(21.7)**	**7** **(25.0)**	**18** **(27.7)**	**10** **(23.8)**	**12** **(29.3)**	**25** **(25.3)**	**5** **(29.4)**
制度を利用していない職員との不公平感	56 (11.2)	23 (11.1)	3 (10.7)	6 (9.2)	4 (9.5)	6 (14.6)	13 (13.1)	1 (5.9)
保育サービスの不足	45 (9.0)	16 (7.7)	2 (7.1)	7 (10.8)	7 (16.7)	2 (4.9)	10 (10.1)	1 (5.9)
職員が制度を利用しない	6 (1.2)	3 (1.4)	－ －	－ －	1 (2.4)	1 (2.4)	1 (1.0)	－ －
業務が忙しく取り組む余裕がない	63 (12.6)	21 (10.1)	4 (14.3)	12 (18.5)	3 (7.1)	5 (12.2)	13 (13.1)	**5** **(29.4)**
院内で制度を利用しにくい雰囲気がある	7 (1.4)	3 (1.4)	－ －	1 (1.5)	1 (2.4)	－ －	1 (1.0)	1 (5.9)
コストの増加	53 (10.6)	26 (12.6)	3 (10.7)	6 (9.2)	5 (11.9)	5 (12.2)	8 (8.1)	－ －
業務効率の悪化	53 (10.6)	20 (9.7)	5 (17.9)	3 (4.6)	5 (11.9)	4 (9.8)	14 (14.1)	2 (11.8)
院内でワークライフバランスへの理解が進んでいない	19 (3.8)	7 (3.4)	1 (3.6)	2 (3.1)	1 (2.4)	2 (4.9)	6 (6.1)	－ －
院長等トップの理解がない	16 (3.2)	11 (5.3)	1 (3.6)	2 (3.1)	1 (2.4)	－ －	1 (1.0)	－ －
特に問題はない	14 (2.8)	7 (3.4)	－ －	3 (4.6)	－ －	－ －	2 (2.0)	2 (11.8)
その他	18 (3.6)	11 (5.3)	1 (3.6)	3 (4.6)	2 (4.8)	－ －	1 (1.0)	－ －

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

(2) 病床規模別働きやすい職場づくりを進めていく上での問題

病床規模別にみると，「99 床以下」「100～199 床」「200～299 床」「300～399 床」では「代替職員の確保」が最も多く，「400～499 床」「500 床以上」では「制度を利用していない職員との不公平感」が最も多かった。（表 49）

表 49　病床規模別働きやすい職場づくりを進めていく上での問題

（単位：病院（%））

区分	計	99 床以下	100～199 床	200～299 床	300～399 床	400～499 床	500 床以上
計	499 (96.4)	179 (98.3)	183 (93.4)	68 (97.1)	34 (100.0)	14 (92.9)	21 (100.0)
進め方がわからない	10 (2.0)	7 (3.9)	3 (1.6)	－ －	－ －	－ －	－ －
相談先がわからない	4 (0.8)	3 (1.7)	－ －	－ －	1 (2.9)	－ －	－ －
効果が不透明	13 (2.6)	6 (3.4)	6 (3.3)	－ －	1 (2.9)	－ －	－ －
代替職員の確保	**122** **(24.4)**	**33** **(18.4)**	**49** **(26.8)**	**20** **(29.4)**	**12** **(35.3)**	3 (21.4)	5 (23.8)
制度を利用していない職員との不公平感	56 (11.2)	14 (7.8)	16 (8.7)	10 (14.7)	6 (17.6)	**4** **(28.6)**	**6** **(28.6)**
保育サービスの不足	45 (9.0)	7 (3.9)	23 (12.6)	6 (8.8)	3 (8.8)	2 (14.3)	4 (19.0)
職員が制度を利用しない	6 (1.2)	2 (1.1)	3 (1.6)	－ －	1 (2.9)	－ －	－ －
業務が忙しく取り組む余裕がない	63 (12.6)	30 (16.8)	18 (9.8)	10 (14.7)	3 (8.8)	－ －	2 (9.5)
院内で制度を利用しにくい雰囲気がある	7 (1.4)	4 (2.2)	3 (1.6)	－ －	－ －	－ －	－ －
コストの増加	53 (10.6)	19 (10.6)	20 (10.9)	7 (10.3)	4 (11.8)	1 (7.1)	2 (9.5)
業務効率の悪化	53 (10.6)	22 (12.3)	16 (8.7)	9 (13.2)	1 (2.9)	3 (21.4)	2 (9.5)
院内でワークライフバランスへの理解が進んでいない	19 (3.8)	15 (8.4)	2 (1.1)	2 (2.9)	－ －	－ －	－ －
院長等トップの理解がない	16 (3.2)	9 (5.0)	5 (2.7)	1 (1.5)	1 (2.9)	－ －	－ －
特に問題はない	14 (2.8)	5 (2.8)	7 (3.8)	1 (1.5)	1 (2.9)	－ －	－ －
その他	18 (3.6)	3 (1.7)	12 (6.6)	2 (2.9)	－ －	1 (7.1)	－ －

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

2) 制度の導入・利用について

看護職員の意見・要望を聞く取組みをしているかについて「取組んでいる」は 133 病院(71.9%),「特に取組みはしていないが，随時聞いている」は 50 病院(27.0%)であった。

「取組んでいる」と回答した病院のうち，最も多く取組まれている制度は「上司との個別面接」で，頻度は「年 1 回以上」が最も多かった。(表 50)

表 50　働きやすい職場づくりのための取り組み

（単位：病院（%））

区分	病院数	
計	185	(100.0)
※取り組んでいる	133	(71.9)
特に取組みはしてないが，随時聞いている	50	(27.0)
取組んでいない	2	(1.1)

※「取り組んでいる」の内容（複数回答）

（単位：病院）

区分	年 1 回以上	2～3 年に 1 回	※その他（（）内は内容）
計	173	36	5
上司との個別面接	104	24	4
アンケート（満足度調査等）	69	12	1
意見箱の設置	67		
※その他（具体的内容を記入）	16		

「その他導入している制度の具体的内容」

・職員相談窓口を設置し掲示等で周知
・法人本部の弁護士相談窓口（TEL またはメール）
・看護補助者との意見交換会　1 回/月
・看護管理者の院内ラウンド
・意向調査等の実施
・院内メンタルサポートによる支援
・ストレスチェック
・労使懇談会
・広島県版自己点検ツールチャレンジの活用

Ⅲ　参考資料

（資料１）　令和５年度　広島県看護職員の職場環境づくり実態調査票

令和5年度　広島県看護職員の職場環境づくり実態調査票

保健師、助産師、看護師、准看護師（以下、「看護職員」という）の確保定着のための職場環境づくりの取り組みについてお尋ねします。

＜記入上の注意＞
- ●該当項目の枠内に○印又は数字を記入し、（　　）には必要事項をご記入ください。
- ●小数点第1位まで記入が必要な項目については、小数点第2位を四捨五入して回答してください。
- ●0人の場合は「0」をご記入ください。数字をとっていない場合は「－」をご記入ください。
- ●「注」の表示がある項目については、別紙「注意事項」を参照してください。

（ふりがな）
【記入者】職　位　　氏　名

問1　病院の概要についてお答えください。【令和5年4月1日現在】　No.

①施設名　②所在地　③電話番号　④病院設置主体　をご記入ください。
訂正箇所があれば、右側に赤字で訂正をお願いします。

①
②
③
④

⑤ 稼働病床数をご記入ください。　＿＿＿＿＿床

問2　令和5年度看護職員数を従事している職種別にお答えください。　注1

	区分		保健師	助産師	看護師	准看護師	計
注2 正規	①看護職員数（実人員）【令和5年4月1日現在】（　）内は男性の人数を再掲		（　）		（　）	（　）	（　）
	換算数（小数点第1位まで）						
	②採用者数【令和5年4月1日～4月30日】	新卒者数 注3					
		既卒者数 注3					
注2 以正外規	看護職員数（実人員）【令和5年4月1日現在】						
	換算数（小数点第1位まで）						

※「換算数」＝勤務時間／日÷常勤看護職員の勤務時間／日
常勤看護職員1人あたりの勤務時間数が8時間の場合、4時間勤務職員の「換算数」は0.5となる。

問3　看護補助者についてお答えください。【令和5年4月1日現在】

	区分	看護補助者
正規	看護補助者数（実人員）【令和5年4月1日現在】	
	換算数（小数点第1位まで）	
以正外規	看護補助者数（実人員）【令和5年4月1日現在】	
	換算数（小数点第1位まで）	

問4　時間外勤務についてお答えください。【令和5年10月実績】

常勤看護職員 注4	一人当たり　平均（　　時間）／月　最長（　　時間）／月

問5　夜勤回数に該当する常勤看護職員数（新卒を含む）についてお答えください。（夜勤専従者を除く）【令和5年10月実績】

勤務形態	3交代（変則3交代含む）						2交代（変則2交代含む）				
夜勤回数	0回	7回以下	8回	9回	10回	11回以上	0回	3回以下	4回	5回	6回以上
看護職員数（実人員）	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

※1カ月のうちに3交代と2交代を両方行った人は、2交代を3交代に換算する。（2交代1回を3交代2回として計算）

1

問6　令和4年度の看護職員の状況についてお答えください。

1）看護職員数を従事している職種別にご記入ください。

（ただし、①と⑩については、昨年度のご回答をもとに、当方で記入済みです。）

	区分				保健師	助産師	看護師	准看護師	計
正規	①看護職員数（実人員）【令和4年4月1日現在】								
	換算数（小数点第1位まで）								
	②看護職員数（実人員）【令和5年3月31日現在】								
	令和4年度	③採用者数　注5	新卒者数						
			既卒者数						
		④離職者数　注5	（1）定年退職者数						
			（2）新卒離職者数						
			（1）（2）以外の離職者数						
			計						
	⑤育児休業中の職員数（実人員）【令和5年3月31日現在】								
	⑥介護休業中の職員数（実人員）【令和5年3月31日現在】								
	⑦時間短縮勤務職員数（実人員）【令和5年3月31日現在】								
	令和4年度	⑧病休・休職等職員数（実人員）　注6							
		⑨夜勤専従職員数　注7	実人員						
			延べ回数	3交代（変則3交代含む）					
				2交代（変則2交代含む）					
正規以外	⑩看護職員数（実人員）【令和4年4月1日現在】								
	⑪看護職員数（実人員）【令和5年3月31日現在】								
	令和4年度	⑫採用者数							
		⑬離職者数　※契約期間満了退職者含む							
		⑭夜勤専従職員数　注7	実人員						
			延べ回数	3交代（変則3交代含む）					
				2交代（変則2交代含む）					

2）平均年齢、有給休暇等についてお答えください。

正規	①平均年齢【令和4年4月1日現在】	（　　歳）　※小数点第1位まで記入
	②年次有給休暇の取得状況【令和4年度実績】	（一人あたり　　日）／年　※小数点第1位まで記入
	③年次有給休暇の時間単位での取得【令和4年度実績】	1．できる（※半日取得可能な場合も含む）　2．できない

2

問7　令和4年度の母性保護、育児、介護休業に関する制度についてお答えください。

1）母性保護制度を導入していますか。	1．はい	2．いいえ

以下、「1．はい」と回答された方のみお答えください。（複数回答可）

各制度の導入の有無について○印をしてください。また、「1．あり」の場合は、制度利用の有無についても○印をしてください。

項目	導入について		「1．あり」と答えた方は「利用について」へお進みください → 利用について	
① 夜勤・当直免除	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
② 夜勤・当直日数減	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
③ 超過勤務免除	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
④ 変形労働時間の適用除外	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
⑤ 時差通勤	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
⑥ つわり休暇	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
⑦ 通院休暇（保健指導・検診受診時間の確保等）	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
⑧ 配置転換	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
⑨ その他 ※上記以外の制度を設けている場合は内容をご記入ください。	（　　）			

※変形労働時間制：1週間の労働時間が40時間を超えなければ、特定の日などに法定労働時間を超えて労働させることができる。

2）育児休業制度を導入していますか。	1．はい	2．いいえ

以下、「1．はい」と回答された方のみお答えください。（複数回答可）

各制度の導入の有無について○印をしてください。また、「1．あり」の場合は、制度利用の有無についても○印をしてください。

項目	導入について		「1．あり」と答えた方は「利用について」へお進みください → 利用について	
① 育児休業	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
② 子の看護休暇	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
③ 所定外労働の制限	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
④ 時間外労働制限	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
⑤ 深夜業の制限	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
⑥ 短時間勤務	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
⑦ フレックスタイム制	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
⑧ 始業・終業時間の繰上げ・繰下げ	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
⑨ 託児施設の設置運営	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
⑩ その他 ※上記以外の制度を設けている場合は内容をご記入ください。	（　　）			

3） 介護休業制度を導入していますか。	1．はい	2．いいえ

以下、「1．はい」 と回答された方のみお答えください。（複数回答可）

各制度の導入の有無について○印をしてください。また、「1．あり」 の場合は、制度利用の有無についても○印をしてください。

「1．あり」と答えた方は「利用について」へお進みください

項目	導入について		利用について	
① 介護休業	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
② 介護休暇	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
③ 時間外労働の制限	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
④ 深夜業の制限	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
⑤ 短時間勤務	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
⑥ フレックスタイム制	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
⑦ 始業・終業時間の繰上げ・繰下げ	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
⑧ 介護サービス費用の助成	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
⑨ その他 ※上記以外の制度を設けている場合は内容をご記入ください。	（　　）			

問8　令和5年度の研修体制やキャリアアップについてお答えください。

1）教育研修体制

① 継続教育研修プログラム		1．あり　　2．なし
② 看護部門における教育研修責任者の配置		1．あり（1．専従　2．兼任）　2．なし
③ 病棟・外来などでの教育担当者の配置		1．あり（1．専従　2．兼任）　2．なし
④ 新規採用者の教育研修計画	新卒採用者	1．あり ➡ 厚労省のガイドラインに沿った研修体制（1．あり　2．なし）　2．なし
	既卒採用者	1．あり　　2．なし
	看護補助者	1．あり　　2．なし

2）キャリアアップのための支援（各制度の導入の有無について該当するものに○を付けてください。）

進学	大学・大学院等	1．奨学金制度 4．代替職員の配置	2．休職制度 5．旅費の援助	3．勤務調整 6．授業料の援助
	看護師の養成所（通信制含む）	1．奨学金制度 4．代替職員の配置	2．休職制度 5．旅費の援助	3．勤務調整 6．授業料の援助
資格取得	看護管理者	1．奨学金制度 4．代替職員の配置	2．休職制度 5．旅費の援助	3．勤務調整 6．授業料の援助
	専門看護師	1．奨学金制度 4．代替職員の配置	2．休職制度 5．旅費の援助	3．勤務調整 6．授業料の援助
	認定看護師	1．奨学金制度 4．代替職員の配置	2．休職制度 5．旅費の援助	3．勤務調整 6．授業料の援助
	特定行為研修	1．奨学金制度 4．代替職員の配置	2．休職制度 5．旅費の援助	3．勤務調整 6．授業料の援助
	国内外留学	1．奨学金制度 4．代替職員の配置	2．休職制度 5．旅費の援助	3．勤務調整 6．授業料の援助

問9　働きやすい職場づくりのために独自に取り組んでいる事をご記入ください。

問10　働きやすい職場づくりを進めていく上で問題となっている又は問題となると思われるものを順に3つ選び、番号をご記入ください。

順位1（　　）　順位2（　　）　順位3（　　）

1. 進め方がわからない	2. 相談先がわからない	3. 効果が不透明
4. 代替職員の確保	5. 制度を利用していない職員との不公平感	6. 保育サービスの不足
7. 職員が制度を利用しない	8. 業務が忙しく取り組む余裕がない	9. 院内で制度を利用しにくい雰囲気がある
10. コストの増加	11. 業務効率の悪化	12. 院内でワークライフバランスへの理解が進んでいない
13. 院長等トップの理解がない	14. 特に問題はない	15. その他（　　）

問11　働きやすい職場づくりのために看護職員の意見・要望を聞く取り組みをしていますか。

1. 取組んでいる	2. 特に取組みはしていないが、随時聞いている	3. 取組んでいない

以下、「1. 取組んでいる」と回答された方のみ、その方法・頻度等についてお答えください。（複数回答可）

1. 上司との個別面接	頻度	a. 年　1回以上　b. 2～3年に1回　c. その他（　　）
2. アンケート（満足度調査等）	頻度	a. 年　1回以上　b. 2～3年に1回　c. その他（　　）
3. 意見箱の設置		
4. その他	（　　）	

問12　看護職員の確保・定着の対策等について意見・要望があればご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

5

（資料２）　令和５年度　広島県看護職員の職場環境づくり実態調査　注意事項

別紙

令和５年度 広島県看護職員の職場環境づくり実態調査
注　意　事　項

【1ページ　問２】

注1　看護職員数（令和5年4月1日現在）

・看護職員数（実人員）とは，正規職員で在籍している全職員数を従事している職種別に記入してください。（育児休業，介護休業，長期病気休業等の職員も含む）

・**4月1日採用の新卒看護職員**は，免許申請していれば看護職員数に入れてください。

・換算数とは，常勤勤務時間を1日8時間/週40時間とした場合，その常勤勤務時間を基に計算した人数です。（常勤職員1人＝換算数1人）

・換算数の計算は，短時間勤務する**正規職員**がいる場合（育児短時間勤務など），下記の計算で換算数を出してください。（育児休業，介護休業，長期病気休業の人は，勤務時間が無いので換算人数に入れない）

（計算式）　週の勤務時間÷40時間＝換算数
（例）：1日4時間で週5日勤務＝週20時間勤務の人
20時間÷40時間＝0.5人（換算数）
1日6時間で週3日勤務＝週18時間勤務の人
18時間÷40時間＝0.45人（換算数）
1日8時間で週4日勤務＝週32時間勤務の人
32時間÷40時間＝0.8人（換算数）
上記の3人の短時間勤務者の換算数は，**0.5+0.45+0.8=1.75人**となる。
よって，3人の換算数（**小数点第1位まで**）は，**1.8人**である。
常勤勤務者が10人と上記の3人の短時間勤務者がいる場合，
職員数の合計は13人，換算数は11.8人である。

注2　正規，正規以外

・正規職員とは，原則としてフルタイム勤務であり，雇用の形態が無期雇用かつ直接雇用の職員をいいます。（正規職員の育児短時間制度利用者，短時間勤務者も含む）

・正規以外とは，定年後再雇用者，派遣労働者，契約社員，臨時・パートタイム労働者等の有期雇用者です。

注3　新卒者，既卒者

新卒者とは，看護師等免許を取得して1年未満の者をいい，既卒者とは看護師等免許を取得して1年以上の者をいいます。

【1ページ　問４】

注4　常勤看護職員

・常勤とは，施設が定めている所定労働時間を勤務する職員です。（フルタイム勤務者）

・常勤と非常勤は勤務時間により区分する職員です。

・常勤と正規職員を混同しないでください。（常勤≠正規職員）

・定年後再雇用者，派遣労働者，契約社員，臨時がフルタイムで働いている場合は常勤です。

（裏へ）

【2ページ　問6】

注5　採用者数，離職者数

・令和4年度（令和4年4月1日～令和5年3月31日の期間）1年間の採用と離職の人数です。

・再雇用や任用替え，准看護師から看護師に雇用し直す場合の記入方法は次の通りです。

1)正規職員が誕生日月で定年退職し，年度内に再雇用した場合，正規職員の定年退職者数欄に計上するとともに該当する採用者数欄へ計上。
2)正規職員が3月31日で定年退職し，翌年度（4月1日以降）に再雇用した場合，正規職員の定年退職者数欄に計上。採用者数欄へ計上は翌年度の調査時に採用欄に計上。
3)正規以外から正規職員への任用替えの場合，正規以外の退職者数欄に計上するとともに正規職員の採用者数欄へ計上。
4)准看護師として雇用していた職員を看護師として雇用する場合，准看護師の退職者数欄に計上するとともに看護師の採用者数欄（既卒者の欄）へ計上。
5)同一法人内の他施設への異動は，退職者数欄と採用者数欄に計上。
6)助産師業務から看護師業務への院内異動は記入不要。

注6　病休･休職者

1か月以上の長期病休・休職者の実人員数です。
（1年間の内に，一人の職員が，復職や休職を繰り返しても1人と計算）

注7　夜勤専従職員数

・実人員数とは，令和4年度（令和4年4月1日～令和5年3月31日の期間）1年間で夜勤専従を行った人の人数です。

（例）12か月夜勤専従をした人が1人，
6か月夜勤専従した人が1人，
2か月夜勤専従した人が3人
上記の夜勤専従の実人員は，5人となる。

・延べ回数とは，令和4年度（令和4年4月1日～令和5年3月31日の期間）1年間，全ての夜勤専従者が行った夜勤の回数です。

（例）12か月夜勤専従をした人は1人で，月に3交代夜勤を16回行った＝192回（3交代）
6か月夜勤専従をした人は1人で，月に3交代夜勤を16回行った＝96回（3交代）
2か月夜勤専従をした人は3人で，1人につき月に2交代夜勤を8回行った＝48回（2交代）
上記の夜勤専従者の夜勤延べ回数は3交代が288回，2交代が48回となる。